

將故日本百炭社夫聯合會護盟の操山に日本後國總同盟の大獄を演
び流血の涙を流したる。

尙「故」白蠶公然と慰み候る無善業の報應を謀り、「總務」の同志
山の爪を立憲者密圖に慰み候る非人間的暴行、非人間暴行故
にである。この暴行日本の全産業の心懸とも懸すべき護盟の全炭
本の全産業の應に等する炭業の主幹に護盟炭田の予の王座を留
業する無厭の操に對する無善業の流血の涙を流したる。此れ日
本報が日本産業の團體の爲に、天の斬る工業日本を毀滅する
世界市場に日本商品のメッキを吹雪かせるまじい至る華々」

日本後國總同盟日本百炭社夫聯合

全國の同志諸君の支對を請天丁の五善の世降を仰

時難く味田炭社、總田六社、二階中央並の暴行事件

暴行事件、護盟炭田の對症を補ふ！

炭田
總同盟會福岡出張所

財團
協同會福岡出張所

げて以來、總同盟精神に則り、永年國家産業に於ける炭坑業の立
場と炭坑業の國家的重要性を深慮し、礦山労働者の生活權の確立
並に向上を戦ふと共に坑夫大衆の組織の實力と統制ある訓練を以
て炭坑業の發展と平和に協力の誠を示してゐたのであるが、筑豊
炭坑資本家は頑迷にして徹底的無理解、産業協力の誠意ある健實
なる労働組合に對しても、恐怖すること死靈に對するが如く、御
抱の暴力團一勞務係又は人操りと稱するゴロツキ上り或は無頼漢
の現役に命じ又は御用博徒軍を喚かして暴力を亂用し、コン棒、
木刀、アイク、ドスを以て労働組の合の破壊争議の切り崩し、その
他一切の運動を流血の慘禍で阻止、壓迫、必死の狂態を續けてゐ
る。

次に本年度に於ける極端なる實例二、三を列挙して汎く全國の正
義の批判を乞ふ次第である。